

貧しき人よ泣かないで —エビータ 蔑まれた聖女—

(株)日本設備工業新聞社
代表取締役社長 高倉克也

南米のアルゼンチンが世界に誇る人物がふたりいる。ひとりには革命家エルネスト・チェ・ゲバラ、もうひとりにはエビータという愛称で女性や労働者や農民に慕われたエバ・ペロン（1919-1952）だ。肩身の狭い愛人の子として辛酸を舐めた少女は靴ひとつで都会に出て、あこがれていた女優になり、やがて大統領夫人として政治の舞台で活躍する。男中心の社会で女性参政権を実現し、貧しい者のために慈善事業の先頭に立つ。だが最下層の身の上で教育もまともに受けていないエバへの風あたりは強かった。虐げられた生い立ちは上流階級に対する容赦ない募金活動へと彼女を駆り立てた。恵まれない人々から聖女と讃えられたファースト・レディはその代償として権力を濫用する悪女と罵られる。

権力の階段を駆け上がる

エバは妻帯者である農場主と料理人である未婚の母の末娘として草原地帯の辺境の村で生まれた。4人の姉姉と日陰の身で育てられ、のちに「子供の頃から世の中の不公平に怒りを覚えた」と回想している。貧しくても美しく成長した少女はカトリック信者が大半を占める窮屈な田舎ぐらしから一刻も早く抜け出したいと願うようになった。たまたま巡業で訪れたタンゴ歌手を頼って15歳で家出し、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスをめざす。

当時のブエノスアイレスはヨーロッパを中心とした穀物と牛肉の輸出貿易で空前の好景気に沸いていた。しかし政情は不安定で軍事クーデターがしばしば起きていた。

華やかな大都会の片隅でエバは日系カフェのウェイトレスや水着のモデルをして金を稼いだ。身

のこなしも洗練され、天性の美貌に一段と磨きがかかって「誰もが私に言い寄ってきた」という。

本格的に女優を志し、各方面に積極的に売り込んでラジオドラマの主演の座を掴みとる。評判は上々で念願の映画にも出演するようになり、女優としての知名度が高まった。

1939年、第2次世界大戦が勃発すると中立国のアルゼンチンでも軍部の力が増大する。戦時中、エバは地震被災者を救済するチャリティショーでファン・ペロン陸軍大佐と出会い、たちまち惹かれあうようになる。

ペロンは軍事政権の副大統領で国防大臣と労働福祉庁長官を兼務する人気者だった。おなじ軍人としてナチス・ドイツのヒトラーやイタリアのムッソリーニとも親しく、政治的にはファシスト寄りで見られていた。ただヒトラーによるユダヤ人弾圧に公然と反対し、欧米大資本に抗して自国



エバ・ペロン

の労働者を保護するなど独自の存在感を発揮していた。強靱な指導力のあるペロンに共感したエバは共に権力への階段を駆け上がっていく。

デスカミサドスの正義

第2次世界大戦が終結した1945年、アメリカに支援された反ペロン派のアバロス将軍が反乱を起こし、ペロンは逮捕されて有罪判決を受ける。エバはラジオでアバロスを烈しく糾弾し、ペロンの即時釈放を訴えた。全国各地で労働者がデモやストライキを組織し、支持基盤の弱いアバロスはあっけなく退陣する。

アメリカ資本や上流階級は労働者の一斉決起に驚愕し、デスカミサドス（シャツなし人種）と侮蔑を込めて非難した。エバは「デスカミサドスは苦難、正義、真実を意味する言葉なのです」とただちに反論して喝采を浴びる。ペロンは釈放後、歓喜の叫びに迎えられてエバと結婚した。翌年、大統領選挙に出馬し、圧倒的差で勝利する。

大統領就任後、ペロンはイギリス資本の鉄道を国有化し、最低賃金や有給休暇を制度化するなど労働者に配慮した政策を断行した。ファースト・レディのエバはペロン新政権における女性の象徴的存在として「すべての女性が社会が思っているよりも、もっと能力があることを私は知っています」とアピールし、悲願の女性参政権を確立する。慈善活動ではエバ・ペロン財団を設立し、労働者のための住宅、病院、孤児院、養老院などを続々と整備した。とりわけ貧困層にはミシン、毛布、食料などを惜しげもなく配布し、その一部は敗戦で困窮状態にあった日本にも送られたという。

こうした活動をばらまき政策と揶揄する上流階級には「私は彼らが貧しい人たちに強いた苦しみのすべてに償いをさせるでしょう」と宣言し、エバへの信頼はさらに高まった。クリスチャン・ディオールなどフランスの高級ブランドを愛好し、イタリアの高級車マセラティを乗り回して上流階級から成り上がりで冷笑されても、彼女は貧しき者の希望の女神でありつづけた。

外交政策では1947年、レインボー・ツアーと命名したヨーロッパ外遊に出発する。スペインでファシスト政権のフランコ将軍を訪問する一方、

カトリック教徒の総本山バチカンでローマ教皇と会見するなど軍事色の強いペロン政権のイメージチェンジを図ろうとした。

永遠に美しく誇り高く

海外デビューを果たし、国際的にも名声を轟かすようになったエバは生涯の絶頂期を迎えていた。ペロンは妻の副大統領起用を内定する。ところが1日18時間もの激務をこなしていたエバの身体は病魔に蝕まれつつあった。異変に気づいたときはすでに遅く末期の子宮がんを患っていた。症状が悪化するに連れて痩せ細り、演説するときは直立できるようにコルセットを装着し、分厚い軍服を着て大統領府のバルコニーに立った。

人々の願いも虚しく33歳の若さでエバは早逝する。葬儀には全国から70万人もの人々が押し寄せ、遺体は防腐処理を施されて生前の姿のまま公開された。

彼女の死後、ブエノスアイレスにエビータ博物館が開設され、愛用のドレスや貧しい人々に贈ったミシンなどが展示された。100ペソ紙幣には2012年から彼女の肖像画が描かれている。

波瀾に充ちた生涯はミュージカル『エビータ』で再現され、ロンドンやブロードウェイの公演で異例のロングランを記録した。日本でも劇団四季などが繰り返し上演している。

歌手のマドンナの主演で映画版『エビータ』も1996年に公開された。主題歌の「アルゼンチンよ泣かないで」は世界中で歌い継がれている。

カリスマ的なエバの後ろ盾を失ったペロンは1955年に失脚し、フランコを頼ってスペインに亡命する。エバの遺体がペロン復権のシンボルとなるのを恐れた反ペロン政権は秘かに遺体を国外に運び出し、別人の名前でイタリア・ミラノの墓地に葬った。1972年、ペロンが返り咲いて帰国するときに遺体もブエノスアイレスに戻された。

もっとも格式の高い由緒あるレコレータ墓地は歴史が凝縮された場所と呼ばれている。黒光りする御影石がエバの墓碑で世界中から訪れる人々が赤い薔薇やカーネーションを捧げている。墓碑の地下4メートルの小部屋には永遠に若く美しく誇り高きエビータが眠っている。